

經典

般若心經

修証義

曹洞宗 天神山貞昌院版

○摩訶般若波羅蜜多心經

かんじーざいばーさつ

ぎょうじんはんやーはーらーみーたーじー しょうけんごーおんかいこう

觀自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空

どーいつぢいーやく しやーりーしー しきふーいーくう くうふーいーしき しきそくぜーくー

度一切苦厄 舍利子 色不異空 空不異色 色即是空

くーそくぜーしき じゆーそーぎょうしき やくぶーによーぜー しやーりーしー ぜーしよーほーくうそう

空即是色 受想行識 亦復如是 舍利子 是諸法空相

ふーしょうふーめつ ふーくーふーじよう ふーぞうふーげん ぜーこーくうちゆうむーしき

不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中無色

むーじゆーそうぎょうしき むーげんにーびーぜつしんにー むーしきしょうこうみーそくほう

無受想行識 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法

むーげんかい ないしーむーいーしきかい むーむーみようやくむーむーみようじん ないしーむーろうしー

無眼界 乃至無意識界 無無明亦無無明尽 乃至無老死

やくむーろうしーじん むーくーしゆうめつどう むーちーやくむーとく いーむーしよーとくこー

亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故

ばーだいさつたー えーはんやーはーらーみーたー こーしんむーけいげー むーけいげーこー

菩提薩埵 依般若波羅蜜多 故心無罣礙 無罣礙故

むーうーくーふー おんりーいつさいてんどうむーそう くーぎようねーはん さんぜーしよーぶう

無有恐怖 遠離一切顛倒夢想 究竟涅槃 三世諸仏

えーはんやーはーらーみーたー こーとくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい

依般若波羅蜜多 故得阿耨多羅三藐三菩提

こーちーはんやーはーらーみーたー ぜーだいじんしゆー ぜーだいまようしゆー ぜーむーじようしゆー

故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪

ぜーむーとうどうしゆー のうじよういつさいくー しんじつふーこー

是無等等呪 能除一切苦 真實不虛

こーせつはんやーはーらーみーたーしゆう そくせつしゆーわつ

故説般若波羅蜜多呪 即説呪曰

ぎやーていぎやーてい はーらーぎやーてい はらそうぎやーてい ばーじー そわかー

羯諦 羯諦 波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶

はんやーしんぎよう

般若心經

般若心経読み下し

観自在菩薩が、深般若波羅蜜多を行じし時、五蘊は皆空なりと照見し、一切の苦厄を度したまえり。

舍利子よ、色は空に異ならず、空は色に異ならず。色はすなわちこれ空、空はすなわちこれ色なり。受・想・行・識もまたかくのごとし。

舍利子よ、この諸法は空相にして、生ぜず滅せず、垢つかず淨からず、増さず減らず。この故に空の中に色なく、受・想・行・識もなく、眼・耳・鼻・舌・身・意もなく、色・声・香・味・触・法もなく、眼界もなく、乃至、意識界もなし。

無明もなく、また無明の尽くることもなく、乃至、老も死もなく、また老と死の尽くることもなく、苦・集・滅・道もなく、智もなく、また得もなし。無所得を以つて故、菩提薩埵は般若波羅蜜多に依る、故に心に罣礙なく、罣礙なき故に、恐怖あることなく、一切の顛倒夢想を遠離して、涅槃を究竟す。

三世諸仏も、般若波羅蜜多に依るが故に阿耨多羅三藐三菩提を得たもう。

故に般若波羅蜜多を知るべし、これ大神呪なり、これ大明呪なり、これ無上呪なり、これ無等等呪なり、よく一切の苦を除くこと、真実にして虚ならざる。

故に般若波羅蜜多の呪を説く。すなわち、呪を説いて曰く、

ガーテー ガーテー パーラガーテー

パラサンガーテー ボーディ スヴァハー

般若心経○

○修証義 しゆしやうぎ

第一章（總序）

生しやうを明あきらめ死しを明あきらむるは仏家ぶつけいちだいじ一大事いんねんの因縁いんねんなり、生死しやうじの中しやうじに仏あれば生死しやうじなし、但ただ生死しやうじすなわち涅槃ねはんと心得こころえて、生死しやうじとして厭いとうべきもなく、涅槃ねはんとして欣ねごうべきもなし、是時このとき初めて生死しやうじを離はなるる分ぶんあり唯ただ一大事いだいじ因縁いんねんと究尽くわうじんすべし。

人身にんしん得ること難かたし仏法ぶつぽう値たてうこと希まれなり、今我等いまわれら宿善しゆくぜんの助くるに依よりて、已すでに受け難にんしんき人身にんしんを受けたるのみに非あらず、遭あい難ききの仏法ぶつぽうに値あい奉たてまうれり、生死しやうじの中の善生ぜんしやう、最勝さいしやうの生しやうなるべし最勝さいしやうの善身ぜんしんを徒いたすらにして露命ろめいを無常むじやうの風まかに任なかすること勿なれ。

無常むじやう憑たのみ難し、知ろめいらず露命ろめいいかなる道の草くさにか落ちん、身み已すでに私わたくしに非あらず、命こういんは光陰こういんに移しされて暫しばらくも停とどめ難し、紅顔こうがんいづく

へか去りにし、尋ねんとするに蹤跡なし、熟観ずる所に往事の
再び逢うべからざる多し、無常忽ちにいたるときは

国王大臣親昵従僕妻子珍宝たすくる無し、唯独り黄泉に趣

くのみなり、己に随い行くは只是れ善悪業等のみなり。

今の世に因果を知らず、業報を明らめず、三世を知らず善悪を

弁まえざる邪見の党侶には群すべからず、大凡因果の道理歴然

として私なし、造悪の者は墮ち、修善の者は陞る、毫釐もたが

わざるなり、若し因果亡じて虚しからんが如きは、諸仏の出世

あるべからず、祖師の西来あるべからず。

善悪の報に三時あり、一者順現報受、二者順次生受、三者

順後次受、これを三時という、仏祖の道を修習するには、其の

最初よりこの三時の業報の理を効い驗らむるなり、爾あらざれ

ば多く錯りて邪見に墮つるなり、但邪見に墮つるのみに非ず、
悪道に墮ちて長時の苦を受く。

当に知るべし今生の我身二つ無し、三つ無し、徒らに邪見に
墮ちて虚しく悪業を感じせん、惜からざらめや、悪を造りな
がら悪に非ずと思ひ、悪の報あるべからずと邪思惟するに依り
て悪の報を感じ得せざるには非ず。

第二章（懺悔滅罪）

仏祖憐みの余り広大の慈門を開き置けり、是れ一切衆生を
証入せしめんが為なり、人天誰か入らざらん、彼の三時の
悪業報必ず感ずべしと雖も、懺悔するが如きは重きを転じて
軽受せしむ、又滅罪清浄ならしむるなり。

然あれば、誠心を専らにして前仏に懺悔すべし、慙懣するとき

前ぜん仏ぶつ懺さん悔げの功く徳とく力りき 我われを拯すくいて清しょう淨じようならしむ、此この功く徳とく能よく

無む礙げの淨じよう信しん精しん進しんを生しょう長ちようせしむるなり、淨じよう信しん一いち現げんするとき、

自じ他た同どうじく転てんぜられるなり、其その利り益やく普あまねく情じよう非ひ情じように蒙もうぶらしむ。

其その大だい旨しは、願がんわくは我われれ設たとい過か去この惡あく業ごう多たく重おもなりて障しょう道どうの

因いん縁えんありとも、仏ぶつ道どうに因よりて得とく道どうせりし諸しよ仏ぶつ諸しよ祖そ我われを愍あわれみ

て、業ごう累るいを解げ脱だつせしめ、学がく道どう障さわり無なからしめ、其その功く徳とく法ぽう門もん普あまねく

無む尽じん法ぽう界かいに充じゆう満まん弥み綸りんせらん、哀あわれみを我われに分ぶん布ぷすべし、仏ぶつ祖その

往おう昔しやくは吾われ等らなり、吾われ等らが当とう来らいは仏ぶつ祖そならん。

我が昔しやく所しよ造ぞう諸しよ惡あく業ごう、皆かい由ゆう無む始し貧じん瞋ちん癡ち、從じゆう身しん口く意い之し所しよ生しょう、

一いつ切さい我が今こん皆かい懺さん悔げ是かくの如さんく懺さん悔げすれば必かならずず仏ぶつ祖その冥みよう助じよあるな

り、心しん念ねん身しん儀ぎ発はつ露ろ白びやく仏ぶつすべし、発はつ露ろの力りき罪ざい根こんをして銷しょう殞えいせしむ

るなり。

普回向

(お経の後にお読みいたします)

ねが 願わくはこの功德を以て 普く一切に及ぼし
われ 我らと衆生と皆共に 仏道を成ぜんことを
しゆじよう みなとも ぶつどう じよう

じーほうさんしーいーしーふー 十方三世一切佛
しーそんぶーさーもーこーさー 諸尊菩薩摩訶薩
もーこーほうじやーほうろーみー 摩訶般若波羅蜜

○五観の偈

(食事の前にお読みいたします)

ひとう 一には 功の多少を計り彼の来処を量る
こう たしよう はか か らいしよ はか

(おいしさを つくつてくれて ありがとう)

ふだう 二には 己が徳行の全欠を付つて供に応ず
おのれ とくぎよう ぜんけつ はか く おう

(ふり返ろう 私のおこない その心)

みつ 三には 心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす
しん ふせ とが はな どんとう しゅう

(言わない やめよう 好き嫌い)

よう 四には 正に良薬を事とするとは形枯を療ぜんが為なり
まさ りようやく こと ぎょうこ りよう ため

(身をつくり 心をつくる よき薬)

いつ 五には 成道の為の故に 今此の食を受く
じようどう ため ゆえ いまこ じき う

(いただきます 今を大事に 生きるため)



般若心經 修証義

編集・発行 曹洞宗貞昌院

Phone 045-843-8852

FAX 045-843-8864

URL <http://teishoin.net>

